

事 務 記 録

議 題	令和4年度第2回三条市公立大学法人評価委員会		
日 時	令和4年8月17日(水) 午後2時～午後2時50分	場 所	三条庁舎 第一会議室
出席者	<p>評価委員：和田 裕委員長、勝見悦行委員、山口隆司委員 〔web出席〕清水希容子委員、清水善廣委員、 事務局：笹川総務部長、小林行政課長、栗山課長補佐、赤川主任</p>		
概 要	<p>次第1 開会 出席委員報告</p> <p>次第2 和田委員長挨拶</p> <p>次第3 令和3年度に係る業務実績評価について (和田委員長) 次第3、令和3年度に係る業務実績評価について、先般、事務局から皆様にメール及び郵送で「評価書原案」を送付した。この「評価書原案」は第1回委員会で説明があったように、各委員の評価シートを事務局が集約・調整を行い私が内容を精査し、大学に意見を求めた後、送付したものである。まずは事務局より内容の説明を受けて、その後意見を頂戴したい。 (小林行政課長) ー評価書原案に基づき説明ー (和田委員長) 次に、評価書原案に対する意見等について発言をお願いしたい。 (清水(善)委員) 11ページにあるデマンド交通ひめさゆりはどのようなものか。 (小林行政課長) ーデマンド交通についての説明ー (山口委員) 私が提出した評価シートには、産学連携実習の充実の項目の中に寄附講座を記載したほうが良いと書かせてもらったが、それは掲載しないのか。 また、14ページの(5)高度教育への対応で、長岡技術大学では他大学の入試枠を備えていると伝えていたはずだが、実績は修正できないのか。 (和田委員長) 私も確認したが、実績に記載されている「設けていない」ということはなかった。しかし、実績を修正することはできないとのことなので、その旨を「法人へのヒアリングに対する回答」欄に記載するか、大学に再確認していただきたい。 (山口委員) この項目では、調査実績があればB、全くなければCになると提出した評価シートに記載した。長岡技術科学大学に対する調査を行っているのでBになると思うが、Cになっている。 (和田委員長) 将来の進学先の調査については、長岡技術科学大学1校だけの実績である。県内外にはそういった大学が複数校あるが、1校だけというのは年度計画に沿っていないのではないかとということで、私がCと判断した。 (山口委員) 令和3年度計画は調査研究するという事なので、1校で</p>		

も実施すれば良いのではないか。

(事務局) 大学からは、長岡技術科学大学では学内入試枠はあるが、他大学に対しては一般選抜だけで特別な枠は設けていないと回答があった。

(山口委員) 一般選抜という枠が他大学の枠になる。

(事務局) 大学側の受け取り方が間違っているということか。

(山口委員) 一般選抜というのは誰でも受けられる枠なので、三条市立大学の卒業生でも受験できる。正しいかどうかは別として、そういう調査をやっているのです、Cでなくても良いと思う。

(和田委員長) 山口委員の意見について、1つでも調査をしたのだからBで良いのではないかということについてどうか。

(清水(希)委員) 詳細はよく分からないが、良い方で記述されればよいのではないか。

(清水(善)委員) 大学院の入試では、学内の学生を選抜するものと他大学の学生を選抜するものに分かれていると思うが、今の説明では一般選抜に三条市立大学の学生も受験できると理解した。

(山口委員) そうだと思っている。

(和田委員長) 実績の表記内容が間違っているということだが、そこは直せないとのこと。だから後付けでそうではないことを申し上げなければならない。

また、山口委員からは1件でも調査を実施していればCではなくBになるのではないかという申し入れだった。これは私の判断でCとしたのだが、他に意見があれば引かなければいけないと思うので、その点はどうか。

(清水(希)委員) どちらなのか分からないところもあるので、最終的に委員長にお任せしたい。

(清水(善)委員) 他の項目と同じだが、開学間もなく時間がないということを見るとBでいいと思う。

大学院について思っているところがあるので述べさせてもらうが、大学自体を探すというよりは市立大学のことをよく理解していて、ここの学生を育ててやりたい、育ててみたいという研究室のある大学を探すというスタンスでそういった方々がいらっしゃる大学を、時間がかかるかも知れないが探してもらって、そういうところに卒業生を送り出すようにしたほうが教育の良い成果につながるのではないかと感じている。

(和田委員長) 大学院というのは学生自身がどういった先生がいるのかななどを調べ、受け入れ可能か事前にコンタクトを取るもので、入るための試験はない。大学としては今の清水委員の発言に意識を持って調査していくことが大事だと思う。本件は評価書に加えるように。

(山口委員) 計画の内容がこれであれば調査したか、しないかということで、調査したのであれば目標を達成したことになるのではないか。

(和田委員長) それではBに修正する。

各委員から提出いただいた評価シートの内容について、私の判断でBからCに変更した項目があと2つあるが、厳しめに評価した結果である。

まず、16 ページの大項目、3、地域貢献に関する目標を達成するための措置、(1)、地域企業との連携推進の企業の依頼に基づき調査や技術支援を行うという年度計画に対して、共同研究マニュアル等をホームページに掲載し企業の相談に必要な手順等を周知したと書いてある。周知はしたが、技術支援は行っていなのでCという判断をしたが、これについてはどうか。

(山口委員) 目標値は依頼件数とあるが、依頼はあったのか。

(和田委員長) 依頼はあったが、それを受けたかどうか、進行状況も記載がない。

(清水(希)委員) 依頼は受けたが支援はしていないということ。そういった意味では厳しめに評価しても良いと思う。逆に来年1つでも支援すればBにするか、もうちょっと頑張ってもらいたいのでCにするか。この項目にある「企業の依頼に支援を行う」というのは結構大切なことだと思うので、その辺の議論を来年に繋げていくのも大事だと思う。

(和田委員長) 大学からの報告に詳しいことは記載されていないか。

(事務局) 大学には依頼件数と実績件数の確認をしたが、依頼件数だけの回答であった。

(和田委員長) 実績があれば記載するはずだ。

(笹川部長) 開学初年度なので、依頼があって頑張ってやっているのではないかと思う。まだ結果が出ていないので記載できなかったのではないかと感じている。

(山口委員) 環境を整備するというのはホームページやマニュアルを作るというところまでで、それはOK。後は支援まで行ったかというところで、実績が無いという点では期待値を込めてCというのも有りだと思う。

(和田委員長) 全て満点というのも違うような気がするので、更に努力していただきたいという期待を込めてCでいかがか。

もう1つ、24 ページのセキュリティポリシー等の制定、周知、教育、研修等により、学生や教職員のセキュリティ対策の徹底を図るという計画に対し、学生向けのソーシャルメディア利用に関するガイドラインを策定した、セキュリティポリシーについては暫定版を策定し運用を開始したとあったことから、専門家等による具体的な研修は実施したのかと伺ったところ、特にそういったことはやっていない、ガイダンスの周知による云々はあるが専門家によるものは実施していなかったと回答があった。セキュリティポリシーの制定までは行ったがそれを周知する活動の大事な研修等はやっていないということで、これも厳しめにCとさせていただいた。

(山口委員) セキュリティポリシーについてはまだ途中ということであ

ればCでも良い。

(勝見委員) これから実施していただきたいという思いを込めての評価である。

(和田委員長) そのとおり。

当初計画に少し無理があったといえればあったのかも知れない。他の事にも通ずるが、開学1年目にしては少し高めの目標を立ててしまったのかと。しかし、こういった計画を立てたからには、粛々と評価しなければいけないと思う。

(清水(希)委員) それで良いと思う。

(清水(善)委員) 先ほどの技術支援と同じで、委員会も期待しているところなのでメリハリを付けて、セキュリティポリシーは専門家レベルまで求めるということは良いことだと思う。

(和田委員長) それではCにさせてもらう。

事務局と事前打合せをしていながら今になって何だが、私からひとつ気が付いたことがあるので発言させていただく。21ページの(2)、外部研究資金等の獲得促進についての上段をBにしているが、これと同じ内容が15ページの2、研究に関する目標を達成するための措置の(3)にも外部資金の獲得という項目がある。第1回委員会の時に山口委員から指摘があったが、開学1年目にして2件の科学的研究費を獲得しておりすごいじゃないかということでBからAにという話があった。この21ページの外部研究資金等の獲得促進も似たような項目があるが、そこはBとしている。私の提案としては内容が同じなので、今頃になって申し訳ないがAに修正すべきではないかということである。そうでないと矛盾するような気がする。

(山口委員) 見方がちょっと違うと思うが、Aでも良いような項目である。

(和田委員長) 短期間での助成金獲得は評価できるとコメントに書いてあるので、Aで良いのではないか。

(山口委員) ここに再掲が書いてあると常にリンクするようになるのか。見方としては、研究を活発に行っていて、その研究によって自己資金を獲得し、貢献もしている。それで考えると自己資金の獲得もやっているということで、21ページもほうもAにしても良いと思う。

(和田委員長) 年度計画も主な実績も書いてあることは同じである。そのように判断せざるを得ない。

(清水(希)委員) Aに合わせて良いと思う。

(清水(善)委員) Aで良いと思う。

(和田委員長) Aに修正させていただく。

評価結果だけでなく評価に関連する、あるいは将来的なことも含めて、全体を見た結果気が付くところがあったり、より良い大学になってもらうためにこういったことに注意して教育研究や運営をしていただければよろしいのではないかとコメントをいただければ、それも追加

して大学側に伝えることができる。評価委員の役割は単純に達成しているかどうかを評価するというものではなく、プラスアルファでアドバイスをするというのも大きな役割だと思う。お気づきの点があれば発言願いたい。

(勝見委員) 仕事柄だが燕市内の製造業のお客様を先々週訪問したとき、学生を受け入れる産学連携実習を知らなかったと話していた。隣接する燕市に対しても広報をしてほしい。その社長は初めて聞いたと驚いていた。三条市が中心だと思うが、燕市も受け入れているはず。

(和田委員長) 評価書原案の全体評価の概要にも記載してあるが、受け入れが国の実習生制度のような、作業現場で作業をするようなことになってはならない。そうではなく、各企業の研究やいろんなことを含めたトータルで、授業として価値のある内容を提供してもらえるかどうかということ。121社が受け入れてくれるということだが、そういったことを精査した結果、お願いする企業と遠慮する企業を振り分けたのだと思う。公に産学連携実習をやるのであれば広報する必要はあるが、大学としては問合せがあったときに色々と精査することを伝えなければならない。今委員がおっしゃったように、近いエリア、学生が負担なく帰れる範囲には積極的に広報すべきと思う。

(笹川総務部長) 大学に伝えておく。

(清水(善)委員) 今回評価をして感じたことがある。三条市立大学は評価表の全てをAにするような模範生を目指すのではなく、ものづくりのまちのど真ん中にある産学連携の拠点と成り得るアカデミアということで、全国に1校しかないようなユニークな存在だと思う。そういう意味で、尖ったようなスーパーAを取るような特徴のある大学づくりをしていただけたらと思っている。今回の結果を見ると、大学はそうしたものを目指していることが伝わってくるので、継続してぶれずにやっていただければありがたいと感じていた。

(和田委員長) 評価基準に基づく評価結果は一般的で一律なものを求めているので、大学ごとに特色があってしかるべきだと思う。評価については形を整える必要はないと思う。ありのままを出してもらって、そこで我々評価委員が評価して、もう少しこうするかとか気付く点が出てくるのが意味のあることになるので、全てきれいな状態にすることが目的ではないということ、そう意味を含めた意見だと思う。

(清水(希)委員) 地元企業との連携が初年度からこれだけ始まっているということで、これからますます期待するところである。実際のところは現場で苦労がらと思う。数字で1件2件という結果でしか分からないところがあるが、少しでも前向きな動きというか、これから継続的に地域の連携が具体的に成果として出てくることを期待しているので、現場での苦労や数字には表れなかったけれどもここまでやっているとか、そういうことも理解していきたいと思っている。

(山口委員) 運営体制の改善に関するのだが、完成年度までの4年間

ではそう変わらないと思うが、時代の変化やニーズを的確に捉え、収集した情報を分析までするような体制ができて、そういった内容がこのシートの実績欄にもっと出てくるといいと思う。

(和田委員長) 大体の新設大学は完成年度を迎える頃に理想どおりにはいかなかったこと。時代の流れや競合他校などいろんなことを考えていくと、カリキュラムを変えられるのは完成年度後だから、その時になってどうしようかと考えても遅いので、山口委員の話のように、学長を中心に今の流れの中で検証をしながら完成年度後どうしていくかを検討する委員会なり組織なりをきちんとやっていくべきだと思う。

本日は活発な御意見をたくさんいただいた。事務局がまとめた内容をこの最後の段階になって何点か修正するようになって申し訳ないが、よろしく対応いただきたい。

それでは、評価書原案を一部修正して、この評価書原案を地方独立行政法人法第11条第2項第2号に基づく令和3年度公立大学法人三条市立大学 業務実績に関する評価結果とし、同法第78条の2第4項及び第5項のとおり公立大学法人に通知し、その通知に係る事項等を三条市長に報告してはいかがか。

—異議なし—

(和田委員長) 皆様から承認をいただいたので、公立大学法人に通知し、また三条市長に報告させていただく。

なお、本件については公表することとなっているので、事務局から市のホームページで公表してもらうこととする。

以上で令和4年度の評価委員会は終了とする。

(笹川総務部長) 第1回、第2回と御多忙の中、評価内容を御確認いただき本当にありがとうございました。

三条市立大学は生まれたてほやほやで、2年目も何とか定員割れすることなくやっている。

今ほど各委員から御指摘いただいた特徴ある大学を私どもも目指して大学を設置した。産学連携、特に地元企業の製品開発などに学生を取り込んでいただき、商品開発に携わる機会を得ることで、学生にはいろいろと考えを巡らせてもらいたいという思いで設置したところである。学長もその辺を心得ているので、大学の特徴をぶれることなく進めて行ってもらいたいと思っている。どこにでもある金太郎あめではなく、特徴ある大学として選んでいただけるような大学をこれから目指していただきたいというようなことを学長にも伝えたいと思っている。

今年度の評価はこれで終了するが、次回は2年目となるのでさらに厳しい目で評価いただくことになろうかと思うが、その節はよろしく願いたい。

どうもありがとうございました。

次第4 閉会